

お茶の時間

ひとつのことを
ゆっくり話そう。

105P

マジックはなぜ
不思議か？ ①

前田知洋さん X 酒井邦嘉さん

クロースアップ・
マジシャン

言語脳科学者
東京大学教授

数千年にわたり、人々の心を
惹きつけてきたマジックの世界。
その不思議のタネに迫ります。

撮影・青木和義 文・高陽子 写真協力・AFL O

前田さん 「不思議」と思う感性を放棄すると、人生を損してしまいます。



さかい・くによし●人間の言語を脳から明らかにする
研究を行っている。著書に『言語の脳科学』(中公新書)、
『芸術を創る脳』(東京大学出版会)など多数。

まえだ・ともひろ●クロースアップ・マジックの第一人
者として、世界中の政財界人にマジックを披露。著書
に『女性のためのマジックレッスン』(東京堂出版)など。

酒井さん 科学者にとっても、「不思議」はあらゆる研究の出発点です。

太古の昔から、人はなぜマジックに魅せられるのか。世界中のセレブリティにマジックを披露してきたクロースアップ・マジシャン(観客の目の前でマジックをするスタイル)の前田知洋さんが、2回にわたり、異なるジャンルのプロフェッショナルと語り合います。第1回のお相手は、言語脳科学者として第一線で活躍する酒井邦嘉さん。少年時代からのマジック愛好家でもある酒井さんと一緒に、脳とマジックの関係について考えました。

前田知洋さん(以下、前田) 十数年前に、酒井先生が『科学者という仕事』(中公新書)という本に僕のことを書いてくださった。そのことを書いてご連絡したのが、お付き合いするようになったきっかけですね。

酒井邦嘉さん(以下、酒井) 前田さん



「カップ・アンド・ボール」のマジック用の銀製カップは酒井さんの私物。手前は前田さん愛用のトランプ。

の紳士的なふるまいや洗練された演技人を楽しい気持ちにさせてくれる力にはいつも魅了されています。

前田 ありがとうございます。僕こそ、他の分野で吸収したものをマジックに生かしたいと常に思っている。先生の本の数々も糧になっています。ところで、僕はマジックを始めた頃、世界中のマジシャンの演技を見て回ったんですが、そのうちにあることに気づいたんです。同じマジックをしても、演者によってウケる人とウケない人、好かれる人と好かれない人がいる。結局、マジックとマジシャンを切り離して考えるのは間違いないのではないかと思っただけです。

酒井 作者と芸術を切り離せないのと同じですね。

前田 モナリザも「ダヴィンチのモナリザ」として評価を受けているわけですからね。

酒井 「人と言葉」という分け方もよくされがちですが、決してそうではない。その人だからこそ、その人固有の言葉が言えるのであって、両者は一体のはずです。私が言語を専門に研究していると言うと、時々「コミュニケーションの研究ですね」と言われるのですが、私自身は、そう考えたことは一度もありません。人間が外に発する、いわば「記号」としての言語も、確か

に言語の一部ですが、それだけではな。人間の内側にある言語、つまり「言語知識と言語能力」のほうをもっと大事なんです。そのことを最初に言い出したのが、アメリカの言語学者、ノーム・チョムスキー(1)です。

前田 マジックにも同じようなことが言えると思います。つまり、ただ不思議なことさえ見ればマジックになるわけではない。不思議な現象というのは、世の中にたくさんありますからね。そうではなく、人々が心地よいと思う不思議を抽出して見せるのがマジックであり、マジシャンの力なんです。そこから考えても、やはりマジックとマジシャンは決して切り離せるものではないと考えています。

酒井 マジック用品や本を手に入れたからといって、誰でもマジックができるわけではない。その不思議を伝える術を知らなくてはなりません。言葉と人も同じです。言葉で書かれたものが人の心を動かすのは、書いた人が言葉で伝える術を知っているから。その人の心が投影されているんです。

自分で自分のマジックに驚くマジシャンもいる。

酒井 芸術全般に言えることですが、マジックも人間に見せて初めて成立するものです。たとえば、目の前の

ものが消えるマジックを動物に見せても、周りを探そうとするかもしれないけれど、決して驚いたりはいない。

前田 僕のデイナーショーでも、「未就学児は入場できません」といったお願いをしています。幼児はまだ自然法則に反しているということが理解できないからです。ということは、つまり、マジックはある程度のインテリジェンスがないと堪能できないものだと考えるかもしれません。さらに、僕のマジックの定義は「不思議なことをして人の心が動く」ことなので、ただ不思議と思うだけではだめなんです。

酒井 もしも観客が誰もいなくても、演じている人自身が自分のマジックに驚いたとしたら、一人でもマジックは成立するのかもしれない。

前田 僕も、めったにないですが、何年かに一度、自分のマジックに自分で驚く瞬間がありますね。

酒井 僕はフレッド・カッパス(2)というマジシャンが大好きなんです。彼は自分で自分のマジックに驚く。それが本当に自然で、演技に見えない。自分自身が観客になっているかのようなんです。周りの人にも「マジシャン自身が驚いているんだっつら、それは本物の奇跡だろう」と思わせるような説得力がある。

前田 カッパスの有名なマジックに手



酒井さん
不完全だからこそ、脳は想像力で補おうとするのです。

の中から塩がたくさん出てくるという
ものがあるのですが、塩があまりに出
すぎるのでカップス自身が困ってしま
う。19世紀のマジシャンにロベール・
ウーダン(3)という人がいました。
彼は「マジシャンは、魔法使いを演じ
る俳優である」という名言を残してい
ます。それに対してカップスは「人間
を演じた。非常に斬新なスタイルだっ
たと思います。」

酒井 私は専門とする言語から、人間
の本性を解明したいと考えています。
人間が為しうる芸の極みを突き詰めて
いくと、作為を捨てた状態、つまり「無
我の境地」に自然と至るような気がす
るんです。あのヨーヨー・マ(4)も、
生涯で最も素晴らしい演奏をした時は
と聞かれて、「40度以上の高熱が出た
状態で弾いたバッハ」と答えています。

酒井 天変地異の予言でしょうね。干
ばつや洪水など、人知の及ばぬこと
もし予知できたら、不思議な能力の持
ち主ということになり、そういう人が
権力を握ったと思います。
前田 僕は邪馬台国の卑弥呼に興味
があります。魏志倭人伝に「鬼道を事と
し、よく衆を惑はす」とありますが、
卑弥呼はおそらく暦を持っていたんじ
やないかと僕は思っているんです。暦
さえ持っていれば、天候をある程度予
測できますからね。古代ローマのカエ
サルや、アステカ文明なども独自の暦
を持っていた。暦は権力と密接に関連
していたんでしょうね。

酒井 韓国のドラマ『チャン・ヨンシ
ル』でも、朝鮮の王が、日食が起こる
時間に合わせて祭礼を行うシーンがあ
り、天文学的な予言が権力者に必要だ

前田さん

人の脳に不思議を生み出すのがマジシャンの仕事です。



ふらふらの状態でステージに上がって、
観客が何を求めているのかなどといっ
たことは一切考えられず、自分が体得
したものを出し切ることで精いっぱい。
そんな時に最高のパフォーマンスを発
揮するのです。

前田 心と脳と肉体が一体化している
状態と言っているでしょうね。何の作
為もない状態から、魔法のような現象
が起きるのかもしれない。

酒井 いわゆる「火事場の馬鹿力」と
言いますが、実力以上のものが自分で
も知らない間に引き出されていく。そ
んな芸の瞬間というのがあるんですよ
ね。もしかするとフレッド・カップス
も、我を忘れて本気で自分のマジック
に驚いているのかもしれない。そう思
うと面白いですね。
前田 だからこそ、人からノウハウだ

つたことが分かります。あんなに不思
議な現象を言い当てられる人には、民
衆も「従うしかない」となるわけです。
前田 今はカレンジャーが商品として売
られて、神聖さや不思議さは全くなく
なりましたよね(笑)。

不思議と、科学における全ての出発点。

酒井 科学の世界でも、不思議を感じ
る人だからこそ、発見ができると言え
ます。アインシュタイン(5)が自伝
に書いているのですが、彼が最初に驚
いたのが、5歳の時に父親から贈られ
たコンパス(方位磁針)でした。針が
常に北を指すことをとても不思議がっ
たのでしよう。幼い頃に受けた衝撃が、
生涯にわたって彼を揺り動かした。続けた。
前田 アインシュタインの前の科学者

け抽出して、皆で共有しようとしても
うまくいかない。不思議な現象と、不
思議を生み出す人を切り離すと、むし
ろ「不思議」は分りにくくなるのだ
と思います。
完璧すぎるマジックは
むしろタネがばれやすい。

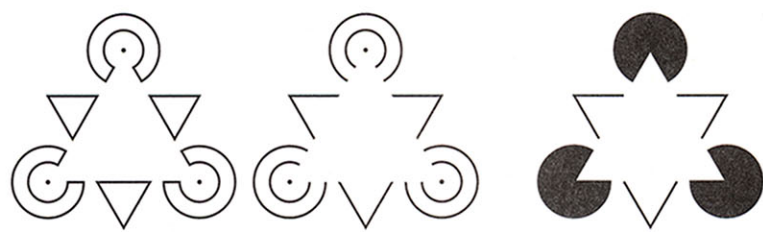
酒井 今日持参したこの図形(ページ
下右端)も、今日のテーマにふさわし
いと思います。カニツツアというイタ
リアの心理学者が発表したものです。
描かれているのは3つの黒いバックマ
ン状の図形と数本の線だけ。なのに、
中央に白い三角形が浮かび上がって見
える。物理的には何も無いのに、輪郭
線がつながって面が見えてくるんです。
前田 マジシャンの役割は、このパッ
クマン(黒部分)の部分を作ることで
だけだと思っています。本当に不思議な
現象を生み出せるわけではない。観る
人の脳を刺激して、頭の中に不思議を
作り出すのがマジシャンの仕事です。

酒井 この三角形の輪郭を実線で結ん
でしまうと、かえって白い三角形が見
えづらくなりますよね。つまり、脳は
不完全だから補おうとする。人の想像
力に委ねる部分が必要なんです。
前田 マジックの世界にも「トウパー
ーフエクト理論」というものがありま
す。あまりにも隙のない、完璧すぎる
マジックは、逆に「タネはこれしか考
えられない」となって、タネが分か
りやすくなってしまふ。それよりも「も
しかしたらタネはあれかもしれない」
「いや、これかもしれない」というモ
ヤモヤを残しているもののほうが、よ

たちは、「コンパスの針が北を指すの
は地磁気があるから当然だ」で済ませ
ていたところを、アインシュタインは
「なぜ磁力というものが、針を引く張
るのか」という、もつと根源的な疑問
を持ったんですよ。
酒井 「力の場」という物理の根本原
理でした。
前田 マジックも同じです。僕のマジ
ックを見て「トリックの構造が分かっ
たからタネが分かった」という人は、
その時点で不思議という感性を放棄し
て、思考を停止してしまっている。表
層的なトリックの構造ではなく、「な
ぜあのマジシャンの演技は人の心を動
かしたのか」という、もつと根源的な
ことが、僕にとっては本当のタネの部
分なんです。

酒井 不思議を大事にすることは、科
学者にとっても本当に大事な感性です。
不思議は、いわば科学において全ての
出発点。「ふしぎだ」と思うこと。これ
が科学の芽です」と、朝永振一郎(6)
先生が色紙に揮毫されています。
前田 いい言葉ですね。最後に先生、
好きなマジシャンの言葉も、お互いに
ひとつずつ披露しませんか。
酒井 僕はダイ・ヴァーノン(7)の
「Be natural, be yourself(自然であれ、
自分自身であれ)」。人と芸を切り離せ
ないという、今日の話にも通じますね。
前田 僕はロベール・ウーダンの「人
はただ騙されたいのではない、紳士に
騙されたいのだ」。自分のマジックも、
ただの不思議ではなく、人々が「楽し
い」「素敵だ」と思う不思議を提供した
いと常に思っています。

描かれていない図形が見える「カニツツアの三角形」。



イタリアの心理学者ガエタノ・カニツツアが1955年に発表したのが右端の図。白を背景にいく
つかのバックマン状の図形や線が描かれているだけだが、真ん中に実際には描かれていない白
い三角形が浮かび上がり、白い背景よりもさらに明るく見える(中央の図も同様)。この視覚効
果は「主観的輪郭」と呼ばれる。この三角形の輪郭を実線で結ぶと、逆に見えづらくなる(左の図)。

り強い不思議を生み出すんです。
酒井 だから、タネは極力シンプルで
造作ないほうがいいんでしょね。
前田 今はテクノロジーが発達してい
るから、トランプ1枚ずつにICカー
ドや無線を埋め込んで、どのカードを
引いたか分かるようにするなんていう
商品も出ています。ところが、それ
を使ってマジックをしても、観客には全
くウケないことがある。
酒井 そういうハイテクを使っている
と思われてしまったら最後、「不思議」
は全部かき消されてしまうでしょう。
前田 ハイテクとは無縁な原始時代に
生きた人々にとって、何が一番不思議
だったと先生は思われますか。

前田さんと酒井さんの心を
動かす学者やマジシャンたち。

1(ノーム・チョムスキー)
1928年。アメリカの言語
学者。人間の脳の中には、あ
らゆる言語に共通するルールであ
る普遍的な文法が存在するとい
う「生成文法理論」を提唱。現代
の言語学に革命をもたらした。

2(フレッド・カップス)
1926〜80年。オランダのマジ
シャン。クローズアップマジ
ックからステージマジックまで
幅広く活躍。マジック界最大級
のコンテスト「FISM」で、3
回グランプリを受賞。

3(ロベール・ウーダン)
1805〜71年。フランスのマジ
シャン。それまで魔術や超能
力を演出するマジシャンが多か
ったなか、夜会服とシルクハッ
トでマジックを行った。「近代奇
術の父」と呼ばれている。

4(ヨーヨー・マ)
1955年。中国系アメリカ
人。世界最高のチェリストと
して活躍。オーケストラとの共
演や室内楽活動、他ジャンルの
芸術家や建築家とのコラボレ
ーションなど活動は多岐にわたる。

5(アルベルト・アインシュタイン)
1879〜1955年。特殊相
対性理論と一般相対性理論を唱
え、現代の宇宙観を創造した20
世紀を代表する理論物理学者。
1921年ノーベル物理学賞受
賞。数多くの箴言や警句もある。

6(朝永振一郎)
1906〜79年。物理学者。量
子電気力学の基礎を築き、素粒
子物理学の発展に寄与。「65年
ノーベル物理学賞受賞」「超多時
間理論」「くりこみ理論」などの世
界的業績を残した。

7(ダイ・ヴァーノン)
1894〜1992年。カナダ出身。アメリ
カで活躍したマジシャン。近代マジックの
創始者の一人。その膨大な知識や人柄など
から「プロフェッサー」の愛称で親しまれた。